

ほくと探訪

～北杜市の伝説とその舞台～
せきぞん
「石尊神社」



白州町にある石尊神社は雨乞岳の登山口にある神社です。雨乞岳はその名の通り、雨乞いの儀式を行う山でした。儀式のため山へ入る際には、この神社で祈願をしたといわれています。また、武田信玄の父・信虎の崇敬が厚かった神社でもありました。

参拝したら見つけてみよう！

境内の土俵

昔から「甲州三辻相撲」と呼ばれる相撲の名所で、毎年9月には奉納相撲が行われています。

相撲ではなく獅子舞をしたところ、神様の怒りに触れてしまったという言い伝えもあります。



三十六童子像

境内には不動明王の眷属である三十六童子の像が建立されています。(36体のうち3体は行方不明)

それぞれの像に名前があり、礼拝してその名を唱えると守護してくれるといわれています。



- 参考文献
- 『白州町誌』白州町誌編集委員会
 - 『白州町の石造物』白州町文化財審議会
 - 『はくしゅうの民話・伝説 第1集』白州町教育委員会
 - 『釜無川右岸流域・風土誌』国土交通省関東地方整備局 富士川砂防事務所

ほ、ん、ま、かいな!

～よみきか戦士 ぶっくまんのまき～



北杜市図書館のキャラクター
「よみきか戦士 ぶっくまん」って?

そのナゾにせまります!

その1 ぶっくまんなにどんなことをしてくれるの?
—よみきかせや手遊び、いっしょに歌を歌って踊ってくれるよ♪たまに手品や新しいことにもチャレンジするよ♪

その2 どこに行けば会えるの?
—市内の図書館で子ども向けのイベントがあるとき、修行の旅に出ていると会えるよ♪楽しみにしててね!

その3 ぶっくまんの顔にはなにが書いてあるの?
—苦手なもの、ライバル、年齢、身長、など……
いろいろなきことが書いてあるよ♪
こんど会ったら顔をよ〜く見てみてね♪



その4 ぶっくまんなにどんな本を読んでもくれるの?

—今まで読んでくれた本をいくつか紹介するね。
『オムライス ハイ!』
『おもちのきもち』
『どうするどうするあなのなか』
『しゃっくりがいこつ』など…
季節に合ったものや、ちょっと笑えるものを読んでくれるよ。
楽しみだね!

～北杜市図書館を拠点に活動中の
図書館ボランティアを紹介～

第9回 読み聞かせの会 くるりくら



くるりくらの おはなしの会と工作教室

毎月第3土曜日 午後1時～2時
場所：ながさか図書館 おはなしのへや

とびだせ! としよかんボランティア

心の中におはなしの種をまく

「子どもたちがおはなしに接することはとても大切」という気持ちで読み聞かせの活動を続けて、19年になります。

現在5人のメンバーを中心に、図書館、小学校、保育園、幼稚園などへ出向いて、読み聞かせや手遊び、工作などを行っています。

幼い頃に心の中におはなしの栄養が入っていると、成長していくなかで、何かにつまずいたときに、とても助けになってくれると思っています。

だからこそ、子どもたち一人ひとりの目線で「いっしょに読む・時間を共有する」ということを、大切に考えています。ぜひ、おはなし会におでかけください!



北杜市図書館ではボランティアを募集しています。興味のある方は、お近くの図書館までお問い合わせください。

編集後記 初めてのやまね便り製作で不安と焦りの日々でしたが、多くの関係者に支えられ、無事に完成させることができました。やまね便りを手にとってくださったみなさまとの縁にも感謝をしながら、今後もよいお便りをお届けできればと思います。(は)



北杜市図書館総合情報誌

やまね便り

54号

あの人に会いたい
絵本作家 鈴木のりたけさん

ほくとてくてく探訪
～北杜市の伝説とその舞台～
せきぞん
白州町「石尊神社」

司書のつぶやき
「ほ、ん、ま、かいな!」
～よみきか戦士 ぶっくまんのまき～

とびだせ! としよかんボランティア
～第9回 読み聞かせの会 くるりくら～

特集

見つかる! 広がる! 未来の仕事!

見つかる！
広がる！

未来の仕事！

～キミの未来へ向けて さあ！ 読もう！～

『あたまにつまった石ころが』



好きなことに情熱をかたむけるってすごい！

作：C・O・ハースト
絵：J・スティーブソン
訳：千葉 茂樹
光村教育図書

『おおきくなったらなにになる？』



子どもの夢が広がるかわいい絵本。

作・絵：フランソワーズ・セニョーボ
訳：なががわちひろ
偕成社

『おとうさんはだいくさん』



お父さんの仕事場をのぞいてみよう！

作：平田昌広
絵：鈴木まもる
俊成出版社

『おひげやチョコッチ』



こんなおひげやさんがいたら楽しいね！

作・絵：ひだきようこ
フレーベル館

『メアリー・スミス』

めざまし時計が少なかった頃、イギリスに実在した「めざまし屋」を紹介。



作・絵：アンドレア・ユーレン
訳：千葉 茂樹
光村教育図書

『パパのしごとはわるものです』

パパの誇りを感じて！父と息子の胸が熱くなる一冊。



作：板橋雅弘
絵：吉田尚令
岩崎書店

『はちうえはぼくにまかせて』



自分が働くことで誰かが喜ぶ、それって一番うれしいね。

作：ジーン・ジョン
絵：M・B・グレアム
訳：森比佐志
ペンギン社

『小説・マンガで見つける！すてきな仕事』全5巻



小説やマンガの名場面から、仕事のやりがいをみつけよう！

編：学研教育出版
学研教育出版

『うちは精肉店』



生きものはどのように食べものになるのか…

著・写真：本橋成一
農山漁村文化協会

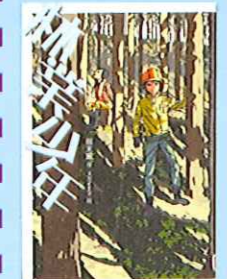
『農家になろう』シリーズ 全10巻



現代農業のありのままを伝えます。

写真：みやこうせい
編：農文協
農山漁村文化協会

『林業少年』



林業のことは知らないことがいっぱい！

著：堀米薫
イラスト：スカイエマ
新日本出版社

『わたしたちはいのちの守人』



いのちの現場に立ち会う看護師・助産師の仕事ときあかします。

著：岩貞みこ
講談社

あの人に会いたい



鈴木のりたけさん
代表作！

『しごとば』
鈴木のりたけ/作・絵
ブロンズ新社/出版



鈴木のりたけさん
最新作！

『ぶららんこ』
鈴木のりたけ/作・絵
PHP研究所/出版

今年3月7日に行われた北杜市子ども図書館まつりに来ていただいた、鈴木のりたけさんにお話を伺いました。

絵本作家になるまで

大学は社会学部で、最初から絵の世界に進もうと思っていたわけではありません。大学を卒業して、JR東海に就職しました。しかし大きい会社なので自分のやりたいことができず、管理職予備軍になるのはつまらないと思ってすぐやめてしまいました。

個人で雑誌の編集をしようと思いました。個人で雑誌の編集をしようと思いましたがうまくいかず、広告の制作プロダクションに入りました。広告の制作に必要なスケッチを描いた時に「うまいね」と先輩から言われたのがきっかけで自分の空いている時間で絵を描き始めましたが、最初から絵本を描こうと思ったわけではありません。もともとシュールな絵を描いていたのですが、周りの人たちから「『何を伝えたいのか、どういう場面か、どういう人たちに読んで見てもらいたいのか』を意識して描いてみては」と言われました。このアドバイスを聞き、自分なりに考えて描いているうちに、ストーリーにして台詞もつけば世界観が分かりやすいと思い、たどり着いたのが絵本でした。処女作の『ケチャップマン』で賞を頂きましたが、これを機に絵本作家になろうとは思いませんでした。世の中に響くのはもっとおしゃやかな絵本だと思っていましたからね。ただ、のちに『しごとば』シリーズと一緒に作ることになるブロンズ新社の編集者の方から、「あなたの描いている絵本には他にはないものがある。磨けばもっとおもしろくなる。」と言われて、絵本作家になろうと思いました。

『しごとば』シリーズ制作の秘話

「しごとば」というテーマは、ともすると教科書になってしまうので、取材先では「この職場にはこれが必ずある」ということにはあまりこだわらずに、たまたま見かけた机の上のおもちゃなど、自分がおもしろいと思ったものを取りあげるようにしています。職場とは言っても、みんな好きなものを置いて自分が気持ちよくなれる空間を作っているんですね。興味を持ったものを書くことが、作品の臨場感につながっていると思います。取材先に型どおりのことだけを聞いて体よく文章を書こうとすると相手に見抜かれてしまい、当たり前なことしか教えてもらえません。ところが取引先の業者の数など「そんなこと子ども向けの絵本に書かないでしょ」ということまで突っ込んで聞くと、「そこまで聞くんだったらこんなことも教えてあげるよ」という気持ちになってもらえておもしろい裏話も教えてもらえるんですよ。みんな心の底では自分の仕事を語りたいと思っているんですね。

は伝えられない」というのが僕の持論です。だからこれからはクマではなく人間が「え〜っ！」と言っている表情を描いていきたいですね。

今後について

絵本以外の分野に挑戦していきたいですね。絵本作家としてやっていくという確固たる自覚があるわけではなく、絵で表現するのがおもしろいからという理由でやってきました。だから絵本以外にもおもしろそうな分野があったらどんどん挑戦していきたいと思っています。今考えているのは、おもちゃづくりですね。工作機械がいっぱい置いてあるカフェに通って、自分で木などを加工しておもちゃを作りたいです。興味があることを趣味レベルではなく突き詰めていくことが次の仕事につながっていくと考えていて、絵本を描いているのも実は同じ理由です。自分の職業が何かということにはあまり意識していないし、森のアトリエですとひとりで絵を描くタイプの絵本作家ではないので、柔軟にやっていきたいです。

人間を描く理由

『しごとば』シリーズや『ぼくのおふる』など人間に注目した作品を描くのは、絵本の世界には動物が出てきすぎだと思っているからです。動物が出てくれば話が柔らかくなるし、かわいく描けるということだと思いますが、「人間の心の動きや複雑さといった生々しいものは、擬人化した動物で

絵本作家

鈴木のりたけさん

1975年、静岡県生まれ。JR東海、グラフィックデザイナーを経て、絵本作家に。さまざまな職業の仕事現場を丁寧に描いた『しごとば』シリーズが大人気。『ぼくのトイレ』（PHP研究所）で第17回日本絵本賞読者賞、『しごとば 東京スカイツリー』（ブロンズ新社）で第62回小学校児童出版文化賞を受賞。

